

『語り合う文学教育』第10号

目次

- I 語り合う文学教育の会10年の歩み 藤原和好
- II 語り合う文学教育の会のこれまで・これから
- 青木照明：語り合う文学教育に想う
- 池田雅治：藁
- 伊藤隆司：教育実践の内的把握を可能とする実践記録のありかた
- 木下ひさし：「どう思う？」から紡がれる「物語」への共感
- 丹藤博文：教室の力学 ―「きつねのおきゃくさま」の実践から―
- 中垣清人：読者との関係の豊かさが作文教育の土台
- 中川均：国語の授業づくり
- 松本吉弘：語り合う文学教育の十年
―「解釈から始めるのではなく、どう思うから始める」ことについて―
- 横山信幸：何が問題か
―「スイミーを読む ―自分らしさとの出会い」
(庄司たづ子『語り合う文学教育』二〇〇九年二月)を読んで―
- 橋本博孝：授業を考える
- 守田庸一：説明文の読みの生産性
- III 実践報告
- 原田聡子：聴き合うクラスで学び合う 「いちねんせいのうた」
- 望月靖子：「かさこじぞう」 民話の世界を感じながら
- 福井麻子：「モチモチの木」 「言いたい、言える」のその後・・・
- 近藤恵子：「弱虫でもやさしけりゃ」の意味を考える授業
「モチモチの木」(斎藤隆介・作)
- 鈴木啓史：「一つの花」(今西祐行)と四年生の子どもたち
- 中西祐司：中山に語り継がれてきた「ごんぎつね」を読む
- 庄司たづ子：思いを言葉にする～言葉の力 「茂吉のねこ」
- 草分京子：物語の展開をドキドキしながら読む楽しさ 「大造じいさんとガン」
- 若山博史：自分の思いを語る授業をめざして 「生き物は円柱形」(5年生)
- IV 記念論文
- 田中実：物語童話「ごんぎつね」の〈読み方〉
- 林朝子：国語科書写の役割 ―入門期文字指導を中心に―
- 魏敏：『スイミー』の翻訳と作品解釈の差異